家畜伝染病の農場内侵入防止について　中央家畜保健衛生所

近年、国内においては、家畜伝染病の高病原性鳥インフルエンザや豚熱が、また近隣のアジア諸国においては、高病原性鳥インフルエンザに加えてアフリカ豚熱や口蹄疫が発生しており、本県においてもこれらの疾病には最大の警戒が必要です。

家畜伝染病の発生防止のためには、農場内への病原体侵入防止対策が重要となりますので、畜産農家の皆様におかれましては、以下の対策について再度ご確認いただきますようお願いします。

ここが重要!!

農場への病原体侵入防止の徹底

①看板の設置等により衛生管理区域に不要な人を立入らせず、不要な物を持ち込まないようにして下さい。

②飼養者だけでなく、衛生管理区域に入場する全ての人に対し例外なく専用の衣服及び長靴の着用、手指消毒等を徹底するとともに、持ち込む物や入場車両の消毒を徹底して下さい。

③野生動物の侵入防止のための防護柵や防鳥ネット、畜舎の壁・天井等に穴や破損箇所、隙間等がないか再点検し、不備等を認めた場合は直ちに改善を図るなど、現場の「隙」を埋めて下さい。

④農場および畜舎周囲に消石灰を散布し、石灰の上から逆性石けん液を軽く散霧する等の待受け消毒を徹底して下さい。

家畜・家きんの暑熱対策について　中央家畜保健衛生所

例年、夏場の気温は35℃を超える日が続きますが、暑熱対策は万全でしょうか？

牛や豚等の家畜には健康に過ごせる適温域があり、この適温域は畜種により異なります（表１）。

具体的には、食欲の減退やそれに伴う肥育成績の悪化、雌においては受胎率の低下など繁殖成績の悪化も見られ、暑熱の影響がひどい場合には、個体によっては死亡に至ることもあります。

暑熱被害を防ぐポイントは、畜舎管理では送風（換気扇や扇風機）、舎内の散水・細霧装置の設置、舎外では屋根の散水、日除け（緑のカーテンなど）、断熱材や反射素材の活用（屋根への消石灰塗布等）です。

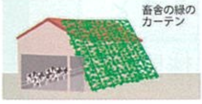
暑熱は家畜の生産性や繁殖性の低下を引き起こし、それが畜産農家にとって大きな経済的損失へとつながります。大切な財産である家畜を暑熱から守るためにも、早いうちから対策をしっかりと行い、暑い夏を乗り切りましょう。

表１．家畜の適温域と臨界温度

畜　種	適温域（℃）	臨界温度（℃）
乳用牛	４～２０	２５
肉用牛	１０～２０	３０
豚	５～２０	２７
採卵鶏	１３～２５	３０～３２
肉養鶏	１９～２３	２８

扇風機と細霧装置

消石灰を塗布した屋根



畜舎のグリーンカーテン